

今月の重点活動

■ トマト GAP 支援

糸貫トマト振興会では、独自ブランド化を目指して様々な取り組みを行っている。その取り組みの一環としてぎふ清流GAPを取得し、PRを図ろうとしており、本年度は、会員1名がぎふ清流GAPの農場評価を受けて、来年度には振興会としてGAPに取り組む予定である。

そこで農林事務所が、1月19日に生産者の自己点検に立ち会い、GAP取組を支援した。

来年度に振興会がぎふ清流GAPを取得するため、今後、農林事務所では、月2回程度勉強会を行い、栽培技術と合わせてGAPについての理解を深めていく。

(園芸産地支援第一係・佐藤 博)



【GAP審査の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■ 麦類 発芽・初期生育とも良好

岐阜管内では、農業法人や大規模農家が転作水田を活用し、麦類が約520ha栽培されている。小麦は、準硬質小麦の「タマイズミ」で、パンやパスタに加工されている。大麦は六条麦の「ミノリムギ」、「カシマゴール」が栽培され、麦茶原料となっている。

農林事務所では、収量や品質の向上に向けて栽培管理指導を行うとともに、品種比較や施肥改善に向けた現地実証ほを設けて、生育経過の確認を行っている。調査水田33地点で定期的な調査を実施しているが、11月中～下旬が温暖少雨で経過したため発芽と初期生育が良好で、関係者一同豊かな麦秋を期待している。

今後、農林事務所では、生育調査を継続するほか、穂肥の施用や赤かび病防除について指導し、令和5年産麦類の安定生産を図っていく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【生育調査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■ にんじん 春夏にんじんの播種順調

12月15日から令和5年産春夏にんじんの播種が始まった。12月24日の大雪により、トンネル(被覆資材)に被害が見られ生育遅延や障害が懸念されたが、その後は天候もよく、生育状況は平年並となっている。

1月以降、天気の良い日が続いており、順調に播種作業も進んでいる。播種はこの後3月上旬まで続き、5～6月に収穫される予定である。

農林事務所では、春夏にんじんの栽培講習会等、これまで栽培指導を行ってきたが、今後も天候等に合わせて、栽培管理が適正に行われるよう支援していく。

(地域支援第二係・水川 誠)



【にんじんの播種作業】

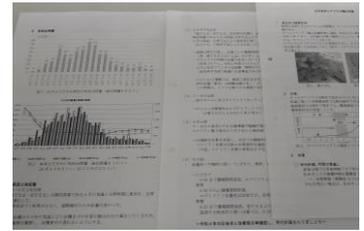
■エダマメ JAぎふえだまめ部会研修会を书面開催

エダマメのハウス栽培が1月25日の播種からスタートするにあたり、例年、1月に前作の反省及び栽培研修会を行っている。

今年度は12月から新型コロナウイルス感染症が拡大していることから書面での開催となり、農林事務所は、令和4年の反省点や対策を示すとともに、栽培暦や農薬一覧等を更新し資料を提供した。

書面では部会や農林事務所が伝えたい内容が充分伝わるか分からないため、特に重要であった病害虫対策については、出荷初めまでに別途希望者に研修会を行うなど、補完的な活動を行っていく。

(園芸産地支援第一係・小森 志保)



【配布資料の一部】

■いちご 本巣莓技術部会現地研修会の開催

本巣莓技術部会の現地研修会が、1月17日に開催された。本年は、「美濃娘」の芽かきをテーマに勉強会や研修会を行っており、今回、2回目の現地研修会が本巣市内の部会員ほ場で実施された。11月4日に開催された1回目の研修会では、頂花房出蕾後の芽かきであったが、今回は腋花房出蕾後のより生育が進んだ状態の芽かき方法の研修で、芽数が多くなり除芽する芽の見分け方が難しくなる。研修会では、経験を積んだ生産者が実演し、図を使った解りやすい説明がなされた。

本年度は、2年振りに生産者と関係機関が一堂に集まる勉強会・研修会が再開され、生産者同士で検討・議論する時間を増やして実施されている。これにより、生産者の自分で考え課題解決に取り組むという意識が高まってきている。

次回は3月に勉強会を企画しており、テーマを決めて参加者同士で議論する形式での開催を予定している。

(園芸産地支援第二係・菊井 裕人)



【研修会の様子】

■カキ 「ねおスイート」栽培技術研究会開催

県の育成品種である「ねおスイート」の栽培技術研究会が、1月27日に農業技術センターにおいて開催され、県関係機関、園芸特産振興会、全農岐阜、関係農協（ぎふ、いび川）及び生産者など約50名が参加した。

農業技術センターと農業革新支援センターから、高品質果実を生産するための、栽培管理に関する情報提供が行われたほか、岐阜農林事務所からは、関係機関と連携して実施している生育調査と果実調査の結果など、産地の情報提供を行った。

今後も現地試験を行うなど「ねおスイート」の栽培技術確立に向けて支援していく。

(園芸産地支援第二係・杉浦 真由、瀧 孝文)



【栽培技術研究会の様子】